

策地
対用
同和
未利

簿価「銀座以上」も

大阪市内 全体で208カ所、15ヘクタール

大阪市の同和対策事業
で買い取り、今も利用さ
れていない土地が市内2
08カ所の計約15ヘクタ
ールに及ぶことが15日、分かっ
た。バブル期に借金で購
入したため、利息がかさ
み、1平方メートルあたりの簿
価が東京・銀座の一等地
以上に高くなっているケ
ースもあった。この日開
かれた市議会財政総務委
員会で、辻義隆氏（公
明）の質問に、関淳一市
長らが答えた。

未利用地は1969年
～2001年にかけて、
市内の同和対策事業の対
象地域内で購入。今年3

月末現在、土地購入費や
借入金の利息などを含め
た簿価が1平方メートル
あたり約771万円。
最も高いのは、東淀川区
にある土地（約154平
方メートル）で約771万円。

浪速区の土地（約104
平方メートル）が約692万円
で続く。いずれも05年の
地価公示で、東京・銀座
3丁目で記録した1平方
メートルあたり666万円を上
回っていた。健康福祉局
が、社会福祉事業用地と
して90年～92年に取得し
た土地という。市の含み
損は全未利用地で283
億円に達する。市は今月
末までに市が所有する1
00平方メートル以上の未利用
地を一括してホームペ
ージに掲載し、処分を急ぐ
方針。